

当事者目線に立ったバリアフリー環境の 課題等に関する最終取りまとめに向けて

国土交通省 総合政策局
バリアフリー政策課
令和5年9月

今後のスケジュール等

今後、下記のとおり情報収集や整理を進め、令和5年度末頃までに最終的な取りまとめを行う

- 課題ごとに事業者の整備状況や考え方等に関する基本的な情報収集や調査、ヒアリング、意見交換等を実施
- 当事者の声をさらに把握する必要があるものについては、ヒアリング等を実施
- 利用者のニーズや、当該取組による移動円滑化の効果、対応の困難度等も考慮しながら、課題の優先順位や対応の方向性を検討
(例えば「インターネットやICTによる情報提供」、「改札口、券売機、運行情報に係る情報保障」などを想定)

地域分科会の活用

当事者参画の促進に資する観点から、本中間整理を基に、試行的に特定の地域分科会において、事業者の協力も得ながら、施設の整備状況の確認や参考となる事例の収集等を行う機会の設定も視野。ここで得られた知見についても、必要に応じて、最終的な取りまとめに盛り込む。

テーマ別意見交換会の活用

対応の方向性や優先順位の検討に当たり、当事者の意見の更なる把握や意見の隔たりが大きい場合においては、認識の共有や適切な解決策の検討を図るため、テーマ別の意見交換会等を活用。

目的

- 当事者目線に立ったバリアフリー環境の課題等に関する最終的な取りまとめにあたっては、移動円滑化の効果や鉄道事業者による対応の困難度等も考慮しながら、課題の優先順位や対応の方向性を検討することが必要。
- 上記の検討材料として、様々な規模・地域の鉄道事業者におけるバリアフリー整備状況の現状や整備の基本的な考え方等を把握するため、書面による実態調査を実施中。
- 調査の実施にあたっては、バリアフリー整備が相当程度進んでいる鉄道駅を題材（1日あたりの平均利用者数を基準として、1社あたり3駅ずつ選定）として、回答を依頼。

調査の概要

- **実施期間**：令和5年8月1日～10月20日
- **対象事業者**：JR、民間鉄道事業者約40社
- **主な調査内容**：
 - － 中間整理に記載されたバリアフリー環境の課題に係る、現在の基準やガイドラインの適合状況（※）
 - － バリアフリー環境の向上に向けて工夫した事例（当事者や専門家からの意見聴取の有無を含む）
 - － 運用・整備にあたっての課題
- ※ インターネットやICTによる情報提供等については、現状詳細なガイドライン等が存在しないため、情報提供・サービス内容、運用方針、わかりにくさを解消するために工夫している点、運用の課題等について幅広く回答を依頼。

2. 最終取りまとめに向けた検討②:対応の方向性の整理

- 取りまとめの方向性整理にあたっては、これまでアンケートや意見交換会を通して把握した当事者の意見及び鉄道事業者における実態の双方を踏まえた検討が必要。
- 以下の観点から精査を行い、**課題の優先順位付けや今後の対応方針を決定することを想定**。

【対応の方向性の整理に向けた考え方】

当事者側の目線 (例)

- ✓ HPにおけるルート表示やバリアフリー関係施設の有無等の情報提供
- ✓ 駅構内での案内図等による移動経路の情報提供
- ✓ 車両内における情報提供
- ✓ 問い合わせ用のインターホンへのアクセス性

ニーズ・シーズの間に
ギャップが存在

ギャップを改めて認識、
原因を分析

事業者側の現状 (※1) (例)

- ✓ ガイドラインに記載が無い先進的な取り組みを実施している
- ✓ ガイドラインにおける望ましい／標準的な整備内容に沿った整備を実施済
- ✓ 移動等円滑化基準には適合済
- ✓ (移動等円滑化基準に適合ができていない)
- ✓ ガイドラインが存在しない又は具体的な記載が無いため未対応

ギャップの原因として考えられるもの (※1)

- 課題は認識しているが、具体的な対応の方向性がわからない (ガイドラインの記載不足、ノウハウの不足等)
 - 駅施設の構造上の問題、技術的課題により整備が困難
 - 乗降客数が少ないため、整備計画が立案しにくい
 - 整備するための経営体力がない
 - 整備の必要性・課題を特段認識していない
- 等

当事者のニーズ・重要性、対応の困難度、行政側の手当の状況 (補助金・ガイドラインの有無等) 等も考慮した優先順位付け

今後の対応方針 (案)

- ガイドライン等で整備を推進する (整備の方向性を示す)
 - 優良事例 (少ない設備投資で実現できるもの等) を横展開する
 - 補助金等により引き続き整備の促進を行う
 - 現時点では中長期的な課題として整理する (※2)
- 等

(※1) 今後、鉄道事業者に対する調査結果を整理し、各課題毎の実態や課題を把握

(※2) 今後の新技術の普及や事業者のノウハウの蓄積等の状況に応じ、将来的にガイドライン等で整備の方向性を示すこと等もあり得る

2. 最終取りまとめに向けた検討③：現地視察を通じた優良事例等の収集

- 移動等円滑化評価会議地域分科会のうち、下記 **4分科会については、現地視察を実施。**
- これら現地視察の際に、**当事者目線の間とりまとめに記載された項目についても、その達成状況などを確認し、最終取りまとめへの活用を想定。**

中国分科会

【視察先】新白島駅及び県庁前駅

【施設の概要】

(新白島駅)【広島県】

- ・開業年月日：2015年3月14日
- ・乗降人員：12,115人/日

(県庁前駅)【広島県】

- ・開業年月日：1994年8月20日
- ・乗降人員：12,947人/日

【調査項目】

- ・車両内からの駅名表示
- ・乗車位置の識別・わかりやすい表示
- ・経路上の障害物・インターフォンの状況



新白島駅



県庁前駅

沖縄分科会

【視察先】牧志駅及び市立病院前駅

【施設の概要】

(牧志駅)【沖縄県】

- ・開業年月日：2003年8月10日
- ・乗降客数：2,849人/日

(市立病院前駅)【沖縄県】

- ・開業年月日：2003年8月10日
- ・乗降客数：1,389人/日

【調査項目】

- ・車両内からの駅名表示 (車両内における表示案内装置 等)
- ・乗車位置の識別・わかりやすい表示 (ホームドアの点字表示 等)
- ・経路上の障害物・インターフォンの状況 (ホームや移動経路における障害物 等)



現地調査の様子

近畿分科会

【視察先】JR大阪駅うめきたエリア
(2023年3月18日開業)

【施設の概要】

先進的な機器を導入 (デジタル可変案内サイン、フルスクリーンホームドア、緑の券売機プラス+AI、AI案内ロボット、視覚障害者ナビゲーションシステム「shikAI」)

【調査項目】

移動等円滑化ルート、トイレ、ホームドア、誘導・サイン、ELV/ESC、改札、インターホン 他



関東分科会

【視察先】調整中

【施設の概要】

【調査項目】調整中

2. 最終取りまとめに向けた検討④：今後の進め方

「当事者目線に立ったバリアフリー環境の課題等に関する整理」の最終取りまとめに向けて、**現地視察を通して事業者における整備の実態や課題等を把握**すると共に、**当事者及び事業者との継続的な意見交換の場を設置**することによって、**より実態に即したとりまとめを行う**。

実態調査結果の整理・対応の方向性等の検討

- ・**今後、下記のとおり検討を進め、令和5年度末頃までに最終的な取りまとめを行う。**
 - 事業者の整備状況や考え方等に関する**実態調査の結果を整理**
 - 必要に応じて当事者からの意見の趣旨等の精査を行い、**課題を整理**
 - 当事者のニーズ、対応の困難度、行政側の手当の状況（補助金、ガイドラインの有無等）等も考慮しながら、**課題の優先順位や対応の方向性を検討**
- (例えば「インターネットやICTによる情報提供」、「改札口、券売機、運行情報に係る情報保障」などを想定)

地域分科会の活用

- ・**当事者参画の促進に資する観点**から、本中間取りまとめを基に、特定の地域分科会において下記の**深掘りに向けた検討を実施予定**
 - 4分科会において、事業者の協力も得ながら、施設の整備状況の確認や参考となる事例の収集等のため、当事者参画の原則の下、**現地調査を実施**
 - 各地方運輸局で開催される地域分科会等において、有識者や当事者、施設設置管理者等を含めた**意見交換会を実施**

テーマ別意見交換会の活用

- ・**当事者の意見の更なる把握が必要な項目**について、認識の共有や適切な解決策の検討を図るため、**今年度秋頃にテーマ別の意見交換会を実施予定**
- 【テーマ例(案)】
- ✓ 車両内からの駅名表示
 - ✓ 乗車位置の識別・わかりやすい表示
 - ✓ 経路上の障害物・インターフォンの状況

当事者・事業者との意見交換会

最終取りまとめ

鉄道業界含む他分野に対しても取りまとめ結果を共有・周知を実施

以降順次、取組を実施